



平成 20 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況

平成 20 年 2 月 7 日

上場会社名 ラサ工業株式会社 上場取引所 東証一部
 コード番号 4022 URL <http://www.rasa.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳萬 雅徳
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 小野 茂夫 TEL (03) 3278 - 3892

(百万円未満切捨て)

1. 平成 20 年 3 月期第 3 四半期の連結業績(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 12 月 31 日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 3 月期第 3 四半期	24,604	3.4	1,419	33.5	1,021	45.8	553	39.9
19 年 3 月期第 3 四半期	23,797	23.3	2,134	105.1	1,884	101.9	921	101.4
19 年 3 月期	31,824	-	2,647	-	2,313	-	1,109	-

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20 年 3 月期第 3 四半期	6	98	-	-
19 年 3 月期第 3 四半期	12	76	-	-
19 年 3 月期	15	03	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
20 年 3 月期第 3 四半期	48,290		18,059		37.4	227.56		
19 年 3 月期第 3 四半期	50,192		17,879		35.6	225.19		
19 年 3 月期	50,351		18,217		36.2	229.50		

2. 配当の状況

当社は、第 3 四半期末を基準日とした配当を行っておりませんので、記載を省略しております。

3. 平成 20 年 3 月期の連結業績予想(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)【参考】

(1) 連結業績予想

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期										
前回予想(A)	34,000	6.8	2,150	18.8	1,600	30.8	870	21.6	10	97
今回予想(B)	34,000	6.8	1,950	26.3	1,350	41.6	650	41.4	8	20
増減額(B - A)	-	-	200	-	250	-	220	-		
増減率 (%)	-	-	-	9.3	-	15.6	-	25.3		

(2) 個別業績予想

(%表示は対前期増減率)

通 期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
前回予想(A)	30,700	7.0	2,000	13.1	1,500	29.1	850	15.9	10 72
今回予想(B)	30,700	7.0	1,700	26.1	1,200	43.3	600	40.6	7 57
増減額(B - A)	-	-	300	-	300	-	250	-	
増減率 (%)	-	-	-	15.0	-	20.0	-	29.4	

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

(注) 詳細は、4ページ[定性的情報・財務諸表等] 4.その他をご覧ください。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び見通しに基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期における我が国経済は、石油・鉱産物などの資源価格の急激な上昇や米国サブプライム住宅ローン問題の実体経済への波及懸念など、先行き不透明要因を増大させながらも設備投資や輸出が堅調さを維持し、緩やかな景気拡大基調のまま推移いたしました。

このような環境のなか、当期間における当社グループのセグメント別の概況は、次のとおりとなりました。

化成品事業

磷酸などの燐系製品は、台湾子会社の寄与もあり前年同期比増収となったものの、主要原料である黄燐価格の高騰や、海外市場における低価格品の攻勢の影響を受け、収益面では低調に推移しました。また、水処理用凝集剤も、販売数量は回復基調にありほぼ前年同期並みの売上高を確保いたしました。原価増により減益となりました。コンデンサー向け原料は、引き続き販売数量を伸ばしましたが、期中の価格変動の影響から減益となりました。

機械事業

下水道敷設などに用いられる掘進機は、東南アジア向けを始めとする輸出が好調に推移したことから、大きく増収となりました。しかしながら、破碎選別機械に関しましては、環境関連リサイクル向けを中心に本体機器が増販となったものの、部品販売が落ち込んだことから減収となりました。また、精密機械加工は、輸出関連加工品が振るわず、特殊スクリーンも減収となりました。

電子材料事業

シリコンウェハー再生事業は、12 インチ(300mm)は伸張いたしました。8インチ(200mm)以下の処理枚数の減少による落ち込みなどにより、前年同期並みとなりました。化合物半導体向け高純度無機素材につきましては、ガリウムが好調に推移し増収となりました。このほか、IC用塗布材につきましては、大きく減収となりました。

その他の事業

石油精製用触媒の再生事業は、受注ロットに低価格品が多かったことなどから減収となり、また不動産の賃貸は横這いで推移しました。

これらを併せた当第3四半期の当社グループの連結売上高は、246 億 4 百万円と前年同期と比較し、3.4%の増収となりましたが、電子材料関連製品の伸び悩み、原材料の高騰、連結子会社の減益などの影響により営業利益は、14 億 19 百万円と前年同期と比較し 7 億 14 百万円の減益となりました。また、米国における化学品の工業所有権係争の和解成立に伴う費用などから、最終損益は 5 億 53 百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第 3 四半期末の財政状態は前連結会計年度末と比較して以下のとおりとなりました。

資産につきましては、流動資産が、28 億 43 百万円減少し 203 億 5 百万円となりました。この主な増減理由といたしましては、現金及び預金の減少 38 億 73 百万円、たな卸資産の増加 5 億 31 百万円、未収入金が増加したことなどによるその他の増加 3 億 75 百万円であります。

固定資産は、主に有形固定資産が 11 億 63 百万円増加したことにより、279 億 84 百万円となりました。

負債につきましては、支払手形及び買掛金の増加 4 億 77 百万円などがあった一方で、短期借入金及び長期借入金が合わせて 25 億 96 百万円減少したことなどから、19 億 2 百万円減少し、302 億 30 百万円となりました。

純資産につきましては、主に四半期純利益として 5 億 53 百万円増加しましたが、前期の配当金として 3 億 96 百万円支払ったことなどから、1 億 58 百万円減少し、180 億 59 百万円となりました。

この結果、資産合計は 482 億 90 百万円となり、自己資本比率は 37.4%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成 20 年 3 月期の通期業績の見通しにつきましては、売上高に関してはセグメント間に増減はあるものの、ほぼ予想通りとなるものと見込んでおります。

しかしながら、化成品事業における黄燐などの原材料の高騰が続くなか、製品価格改定に遅れが生じており、電子材料事業のシリコンウェハー再生事業につきましては、販売計画が若干下回ったことに加え、半導体製品価格の低下が、再生価格に派生的に影響してきたことなどから、営業利益が予想に比べて落ち込む見通しであります。

また、前記工業所有権関連の費用が発生したこと、内部統制強化の一環として資産管理の見直しを行ったことに伴い、固定資産の除却損失が発生する見通しであることなどから、連結・個別共前回の予想を下回ることが見込まれるため、予想を前記のとおり修正するものであります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

固定資産の減価償却の方法及び法人税等の計上基準等に一部簡便な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

休止鉱山鉱害対策費用については、従来特別損失に計上していましたが、当連結会計期間から営業外費用に計上する方法に変更しました。

4. (要約)四半期連結財務諸表

(1) (要約)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円、%)

科 目	〔前年同四半期末 平成 19 年 3 月期 第 3 四半期末〕	〔当四半期末 平成 20 年 3 月期 第 3 四半期末〕	増 減		(参考)前期末 (平成 19 年 3 月期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産	23,864	20,305	3,559	14.9	23,148
1 現金及び預金	6,960	4,685	2,274	32.7	8,558
2 受取手形及び 売掛金	10,807	9,767	1,040	9.6	9,644
3 たな卸資産	4,369	4,741	372	8.5	4,209
4 その他	1,727	1,111	616	35.7	735
固定資産	26,327	27,984	1,657	6.3	27,203
1 有形固定資産	21,417	23,246	1,829	8.5	22,082
2 無形固定資産	1,155	1,283	127	11.0	1,346
3 投資その他の資産	3,754	3,454	299	8.0	3,773
資産合計	50,192	48,290	1,902	3.8	50,351
(負債の部)					
流動負債	20,187	20,434	247	1.2	20,751
1 支払手形及び 買掛金	5,314	5,594	279	5.3	5,117
2 短期借入金	10,465	9,481	984	9.4	10,459
3 その他	4,406	5,357	951	21.6	5,174
固定負債	12,125	9,796	2,329	19.2	11,382
1 長期借入金	9,472	7,083	2,389	25.2	8,702
2 その他	2,652	2,712	60	2.3	2,679
負債合計	32,312	30,230	2,081	6.4	32,133
(純資産の部)					
株主資本	17,479	17,818	339	1.9	17,666
1 資本金	8,443	8,443	-	-	8,443
2 資本剰余金	5,729	5,729	0	0.0	5,729
3 利益剰余金	3,339	3,685	345	10.3	3,528
4 自己株式	32	39	6	19.5	34
評価・換算差額等	382	227	155	40.5	536
1 その他有価証券 評価差額金	376	191	184	49.0	472
2 為替換算調整勘定	6	36	29	421.5	63
少数株主持分	17	13	4	24.4	14
純資産合計	17,879	18,059	179	1.0	18,217
負債・純資産合計	50,192	48,290	1,902	3.8	50,351

(2) (要約)四半期連結損益計算書

(単位:百万円、%)

科 目	〔前年同四半期 平成 19 年 3 月期 第 3 四半期〕	〔当四半期 平成 20 年 3 月期 第 3 四半期〕	増 減		(参考)前期 (平成 19 年 3 月期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	23,797	24,604	807	3.4	31,824
売上原価	17,496	19,136	1,640	9.4	23,702
売上総利益	6,301	5,467	833	13.2	8,122
販売費及び一般管理費	4,167	4,047	119	2.9	5,474
営業利益	2,134	1,419	714	33.5	2,647
営業外収益	188	133	54	29.1	247
営業外費用	439	532	93	21.3	581
経常利益	1,884	1,021	862	45.8	2,313
特別利益	-	126	126	-	205
特別損失	333	215	118	35.4	470
税金等調整前四半期 (当期)純利益	1,550	931	618	39.9	2,048
税金費用	629	379	250	39.7	938
少数株主利益	0	1	0	124.1	0
四半期(当期)純利益	921	553	367	39.9	1,109